

IV 職業観

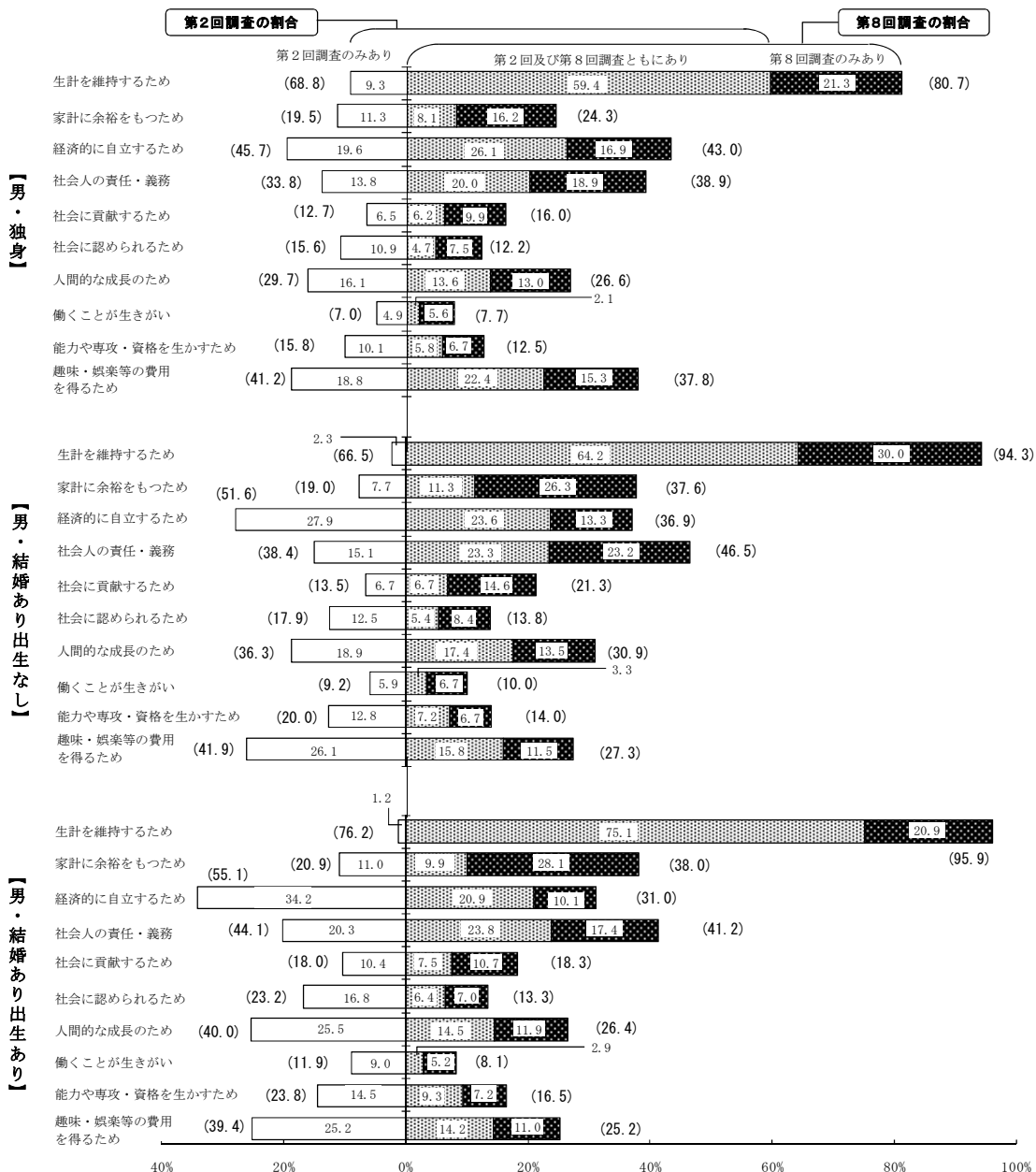
1 結婚・出生の状況別にみた職業観

第2回調査時の独身者のうち、この6年間の結婚、出生の経験の有無にかかわらず男性の職業観は「生計を維持するため」が最も高く、この6年間に結婚、出生を経験した女性の職業観は「家計に余裕をもつため」が最も高い。

第2回の独身者について、性別、結婚・出生の状況別に第2回及び第8回の職業観をみた。

男をみると、この6年間独身では、「生計を維持するため」は第2回 68.8%、第8回 80.7%、結婚あり出生なしでは、第2回 66.5%、第8回 94.3%、結婚あり出生ありでは、第2回 76.2%、第8回 95.9%となっており、いずれも高くなっている。(図15)

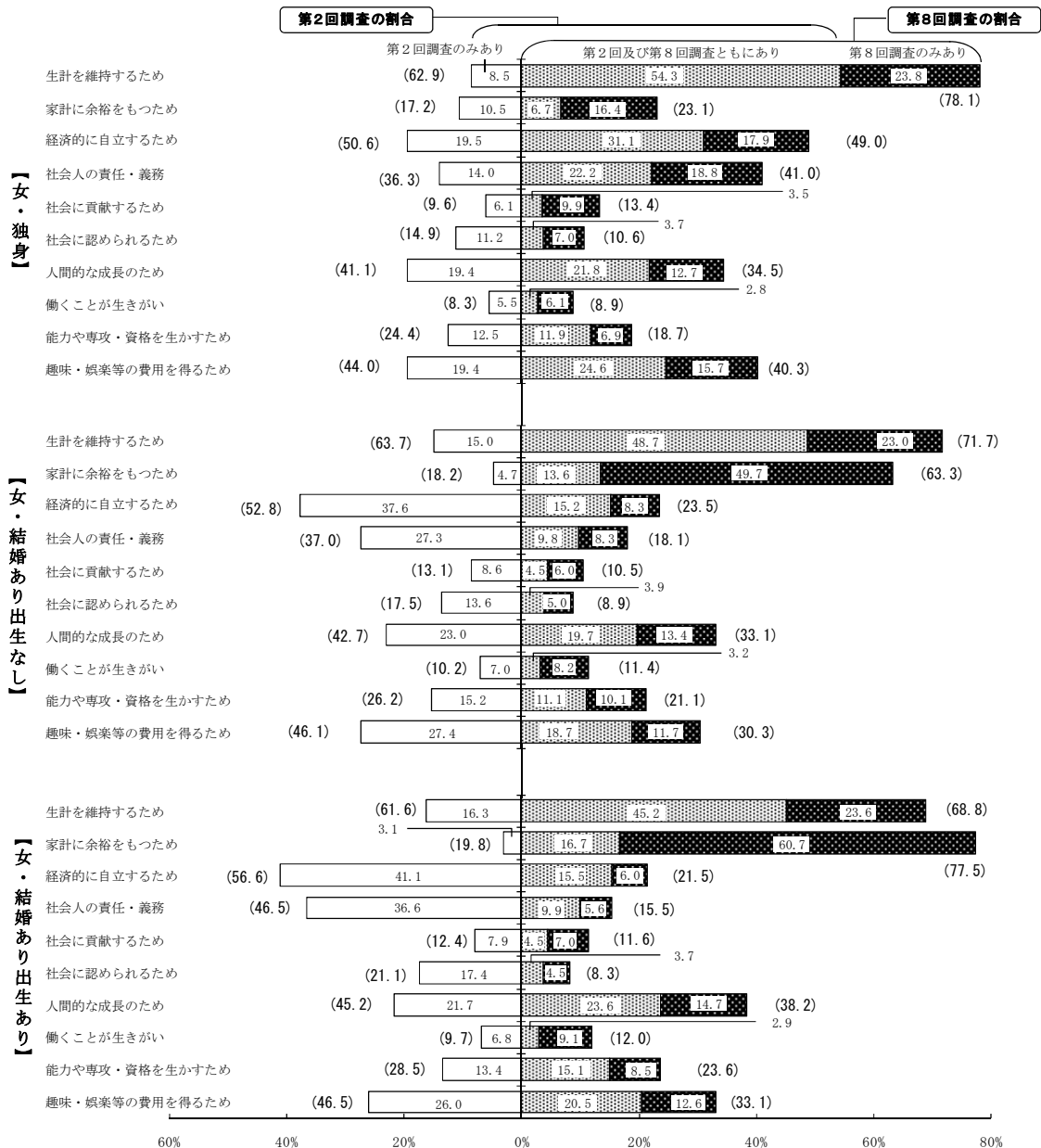
図15 男のこの6年間の結婚・出生の状況別にみた第2回調査時及び第8回調査時の職業観（複数回答）の変化



注：1) 集計対象は、第1回及び第2回調査時に独身で第8回調査時まで回答を得られている者である。ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。
2) () 内の数値は各回の状況である。

また、女をみると、第2回では「生計を維持するため」がこの6年間独身では62.9%、結婚あり出生なしでは63.7%だったが、第8回では、78.1%、71.7%といずれも高くなっている。結婚あり出生ありでは、第2回に「生計を維持するため」が61.6%と最も高かったが、第8回は「家計に余裕を持つため」が77.5%と最も高くなっている。(図16)

図16 女のこの6年間の結婚・出生の状況別にみた第2回調査時及び第8回調査時の職業観（複数回答）の変化



注：1)集計対象は、第1回及び第2回調査時に独身で第8回調査時まで回答を得られている者である。
 ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。
 2) () 内の数値は各回の状況である。

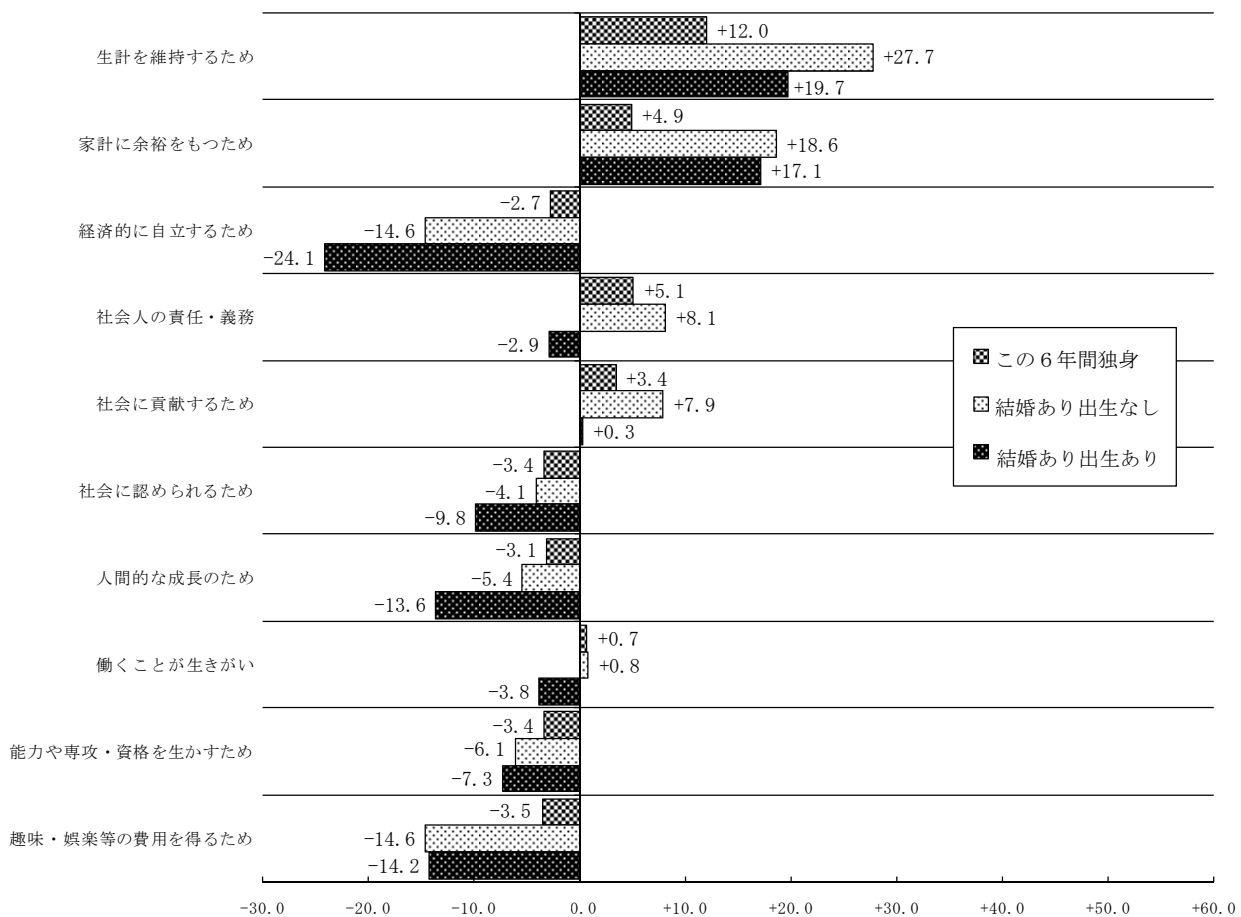
2 結婚・出生の状況別にみたこの6年間の職業観の変化

第2回調査時の独身者のうち、この6年間に結婚、出生を経験した男性の職業観は、「経済的に自立するため」が減少し、「生計を維持するため」が増加している。また、この6年間に結婚、出生を経験した女性の職業観は、「経済的に自立するため」が減少し、「家計に余裕をもつため」が増加している。

17、18頁の図15・16から、第2回から第8回のこの6年間の職業観の変化の増減をみた。

男をみると、この6年間独身では「趣味・娯楽等の費用を得るため」が3.5ポイント減、「生計を維持するため」が12.0ポイント増となっている。結婚あり出生なしでは、「経済的に自立するため」「趣味・娯楽等の費用を得るため」がともに14.6ポイント減、「生計を維持するため」が27.7ポイント増、結婚あり出生ありでは、「経済的に自立するため」が24.1ポイント減、「生計を維持するため」が19.7ポイント増となっている。(図17)

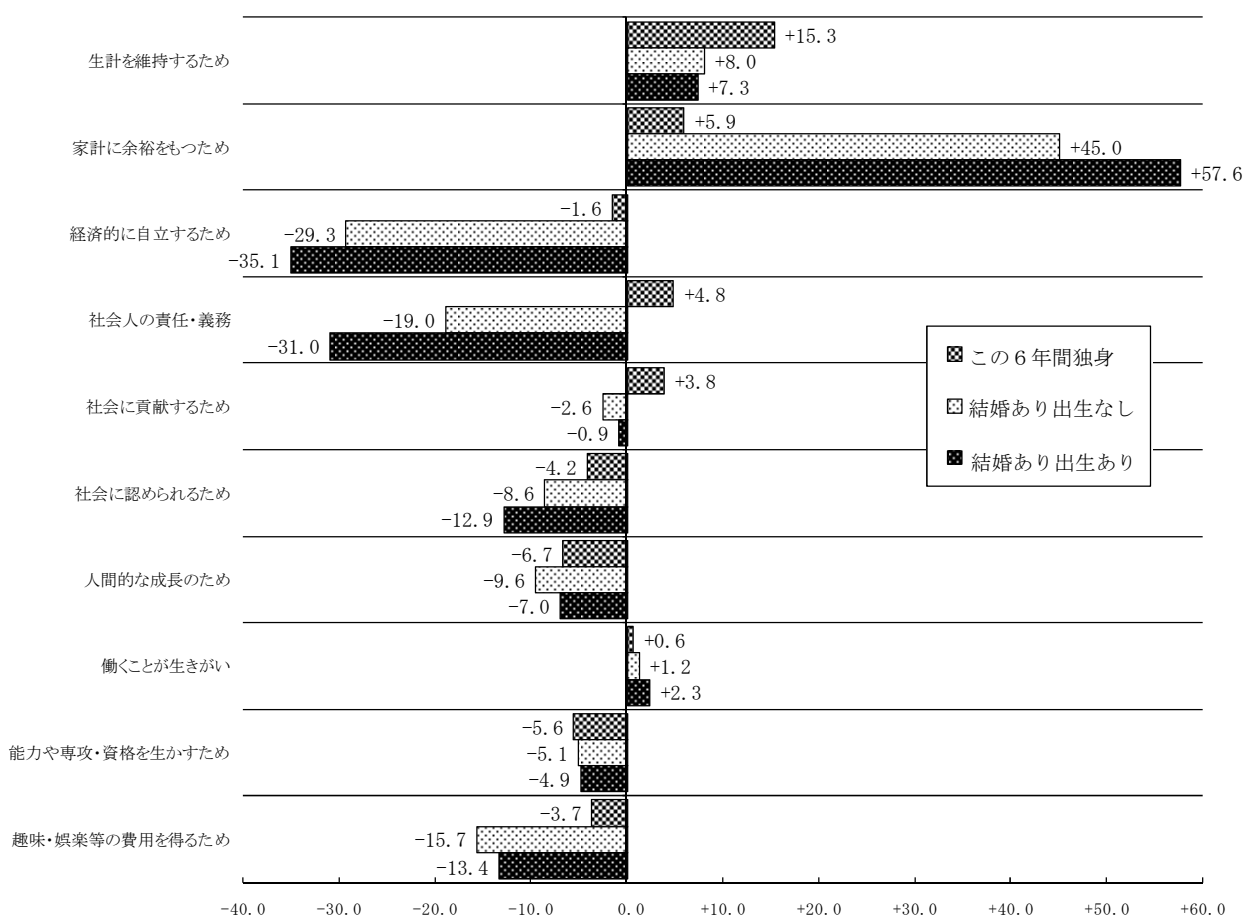
図17 男のこの6年間の結婚・出生の状況別にみた第2回調査時及び第8回調査時の職業観（複数回答）の増減



注:1)集計対象は、第1回及び第2回調査時に独身で第8回調査時まで回答を得られている者である。ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。
2)数値は、第8回調査時の数値－第2回調査時の数値として集計した。

また、女をみると、この6年間独身では「人間的な成長のため」が6.7ポイント減、「生計を維持するため」が15.3ポイント増となっている。結婚あり出生なし及び結婚あり出生ありでは、「経済的に自立するため」がそれぞれ29.3ポイント減、35.1ポイント減となっており、「家計に余裕をもつため」がそれぞれ45.0ポイント増、57.6ポイント増となっている。(図18)

図18 女のこの6年間の結婚・出生の状況別にみた
第2回調査時及び第8回調査時の職業観（複数回答）の増減



注:1)集計対象は、第1回及び第2回調査時に独身で第8回調査時まで回答を得られている者である。ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。
2)数値は、第8回調査時の数値－第2回調査時の数値として集計した。